

24:10 そのとき、総督がパウロに話すよう合図したので、パウロは次のように答えた。

「閣下が長年、この民の裁判をつかさどってこられたことを存じておりますので、喜んで私自身のことを弁明いたします。

24:11 お調べになれば分かることですが、私が礼拝のためにエルサレムに上ってから、まだ十二日しかたっていません。

24:12 そして、宮でも会堂でも町の中でも、私がだれかと論争したり、群衆を扇動したりするのを見た者はいません。

24:13 また、今私を訴えていることについて、彼らは閣下に証明できないはずです。

24:14 ただ、私は閣下の前で、次のことは認めます。私は、彼らが分派と呼んでいるこの道にしたがって、私たちの先祖の神に仕えています。私は、律法にかなうことと、預言者たちの書に書かれていることを、すべて信じています。

24:15 また私は、正しい者も正しくない者も復活するという、この人たち自身も抱いている望みを、神に対して抱いています。

24:16 そのために、私はいつも、神の前にも人の前にも責められることのない良心を保つように、最善を尽くしています。

24:17 さて私は、同胞に対して施しをするために、またささげ物をするために、何年ぶりかで帰って来ました。

24:18 そのささげ物をし、私は清めを済ませて宮の中にいるのを見られたのですが、別に群衆もおたず、騒ぎもありませんでした。

24:19 ただ、アジアから来たユダヤ人が数人いました。もしその人たちに、私に対して何

か非難したいことがあるなら、彼らが閣下の前に来て訴えるべきだったのです。

24:20 そうでなければ、ここにいる人たちが、最高法院の前に立っていたときの私に、どんな不正を見つけたのかを言うべきです。

24:21 私は彼らの中に立って、ただ一言、『死者の復活のことで、私は今日あなたがたの前でさばかれている』と叫んだにすぎません。」

24:22 フェリクスは、この道についてかなり詳しく知っていたので、「千人隊長リシアが下って来たら、おまえたちの事件に判決を下すことにする」と言って、裁判を延期した。

24:23 そして百人隊長に、パウロを監禁するように、しかし、ある程度の自由を与え、仲間の者たちが彼の世話をすることを妨げないように、と命じた。

主の御心ならば、そしてみことばを証ししつつ祈っているなら、必ず正しい方に向けるチャンスがあるものです。もしもパウロのように訴えられることがあっても、画策によって対抗せずに、主の真理を求め、また忍耐と愛によって対抗しましょう。

パウロはテルトロのように総督にこびたりせず、客観的に話します。それは本当に権威を持っているのは神ご自身であるという確信からです。私たちも人を恐れずに、神を恐れて真理に従う者になりたいものです。

また彼は自分をことさらに美化したり弁解したりせずに、客観的に語ります。「彼らが異端と呼んでいる」などということばなどは、全く中立的な表現です。人や社会が自分自身に対して何らかの決定を下すときに、それは客観的であり公平であるべきというパウロの信念が伺えます。それも

また神に信頼してからこそ信念を貫けると言えるでしょう。

しかし、福音に関しては明言して、その信仰によって「良心を保つように、と最善を尽くして」いると、福音が社会的に善であるあることを証ししています。ここにこそ説得力があります。ペリクスもパウロに一目置いた理由がここにあるのです。そのように人を恐れずに、神に信頼する姿勢をもって証しし伝道しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

